

感染症 TODAY

塩野義製薬株式会社



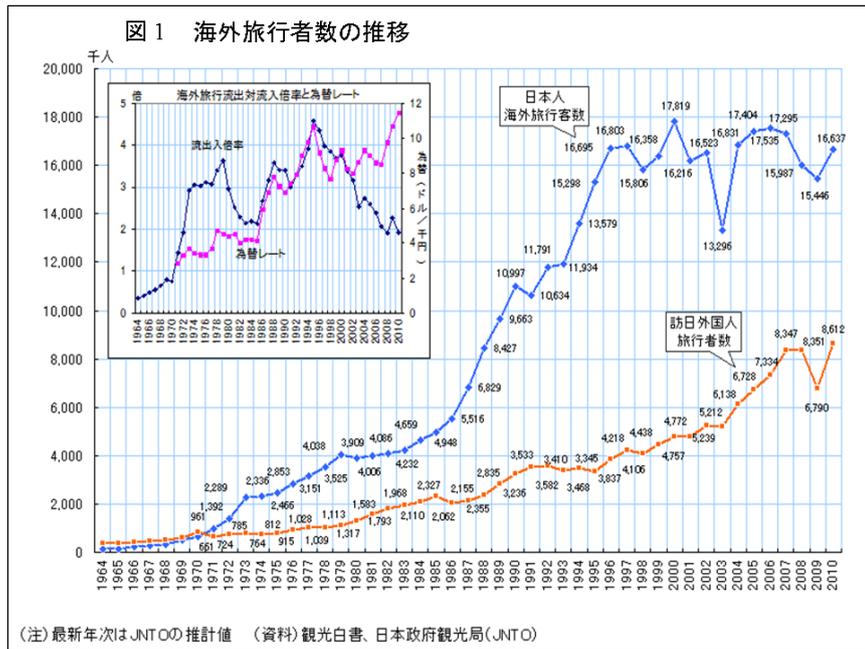
2012年5月2日放送

「旅行者感染症とは」

久留米大学 感染医学臨床感染医学部門教授
渡邊 浩

はじめに

近年我が国の海外渡航者は年々増加し、年間1500万人以上になっています(図1)。渡航先や形態にも変化がみられ、仕事のため家族連れで長期間途上国に赴任する場合や、冒険旅行などの様に従来とは異なる地域に足を踏み入れる場合も多くなっ



ており、海外渡航者が様々な感染症に罹患する危険性が増加しています(表1)。こうした海外渡航者の健康問題を扱う医療機関として、欧米諸国ではトラベルクリニックが数多く設置されており、海外渡航者を対象に健康指導を行ったり、ワクチン接種、携帯医薬品の処方などが行われていますが、日本では海外における医療事情や健康管理について相談できる医療機関は数少ないのが現状です。本来、海外渡航をする場合は渡航地の感染症情報や治安状況を事前に調べ、ワクチン接種をはじめとする必要な感染予防対策を準備しておくことが大切なのですが、残念ながら多くの日本人にはまだそのような習慣はない様です。

表 1 海外でかかりやすい感染症

感染経路	生活上の注意	感染症	主な流行地域	主な症状	予防接種の有無
飲食物から感染	<ul style="list-style-type: none"> ・ミネラルウォーターを飲む ・加熱した料理を食べる 	旅行者下痢症	発展途上国	下痢、嘔吐	
		A型肝炎	発展途上国	発熱、黄疸、全身倦怠感	○
		ポリオ	南アジア、アフリカ	発熱、手足の麻痺	○
		腸チフス	発展途上国（特に南アジア）	発熱、腹痛	○*
		細菌性赤痢	発展途上国	発熱、腹痛、下痢、血便	
		コレラ	発展途上国	水様性下痢、脱水症状	○*
患者の飛沫などで感染	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いやウガイ ・人ごみを避ける 	インフルエンザ	全世界	発熱、咽頭痛	○
		結核	発展途上国	咳・たん、体重減少	○
		流行性髄膜炎	西アフリカなど	発熱、意識障害、頭痛	○*
蚊に媒介	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚を露出しない ・昆虫忌避剤を塗る ・殺虫剤を散布する 	マラリア	発展途上国（熱帯・亜熱帯）	発熱、悪寒	
		デング熱	東南アジア、中南米	発熱、発疹	
		日本脳炎	アジア	発熱、意識障害	○
		黄熱	熱帯アフリカ、南米	発熱、黄疸	○
性行為で感染	<ul style="list-style-type: none"> ・行きずりの性行為を控える ・医療行為にも注意 	B型肝炎	アジア、アフリカ、南米	発熱、黄疸、全身倦怠感	○
		梅毒	発展途上国	性器潰瘍、皮疹	
		HIV感染症	全世界（特に発展途上国）	発熱、リンパ節腫脹	
動物から感染	・動物に近寄らない	狂犬病	全世界（特に発展途上国）	恐水発作、けいれん	○
傷口から感染	・傷口を消毒する	破傷風	全世界	口が開かない、けいれん	○

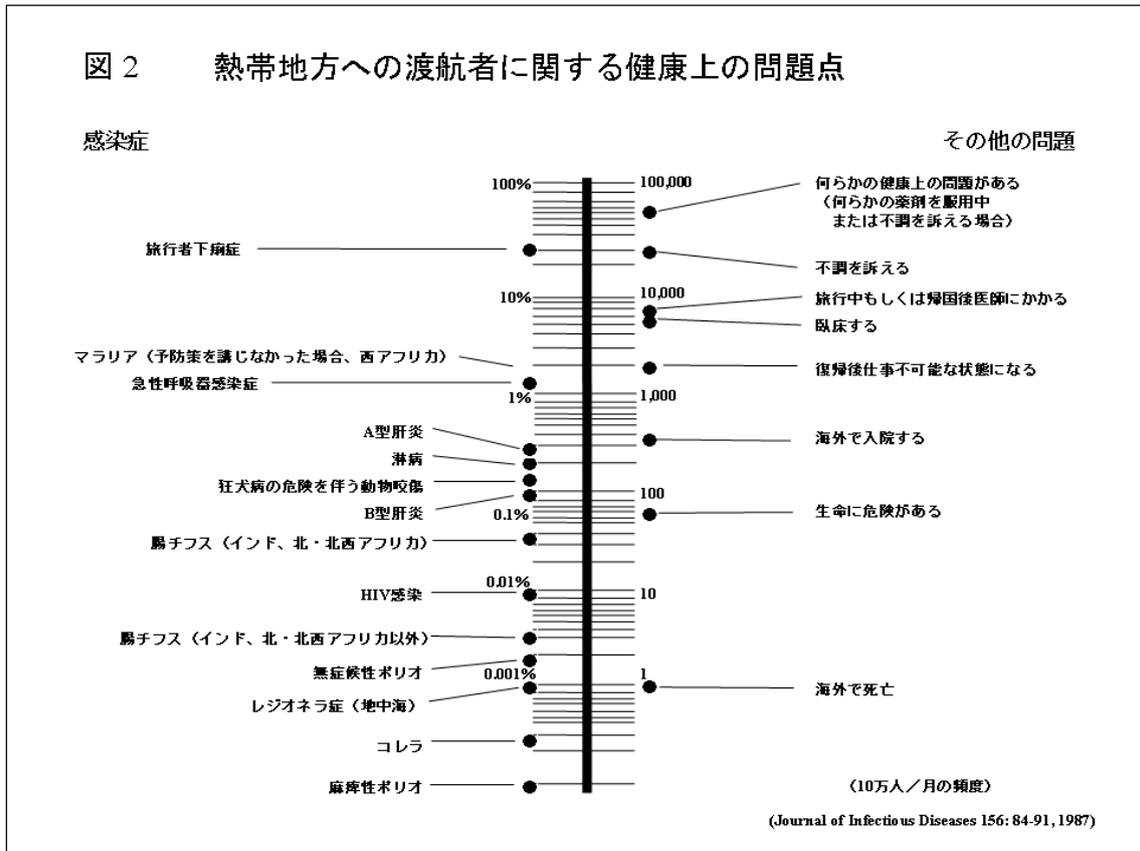
* 腸チフス、コレラ、流行性髄膜炎には予防接種はあるが日本では認可されていない。

（海外旅行者の予防接種 Q&A、厚生労働科学研究費補助金・新興再興感染症研究事業 海外渡航者に対する予防接種のあり方に関する研究班より引用、一部改変）

健康問題の発生頻度と感染症の種類

熱帯地域に1ヶ月間滞在した場合、何らかの健康問題は半数以上の渡航者に発生するとされています（図2）。これには疲労や不眠など軽い症状も含まれますが、下痢や感冒といった実際の病気にかかる頻度は30%程度にもなります。また発熱や下痢などの症状で渡航先あるいは帰国後医療機関を受診する頻度は約8%、海外で死亡する頻度は約0.001%と言われてます。このように死に至る頻度は決して高くないものの、何らかの健康問題を起こしたり、病気になる頻度はかなり高くなるのです。感染症としては、旅行者下痢症やA型肝炎などの飲食物に関連した感染症が最も多く、それに次いで感冒やインフルエンザなどのヒトからヒトにうつる呼吸器感染症、マラリアやデング熱などの蚊が媒介する疾患、淋病やHIV感染などの性行為感染症などがあげられます。また、感染症以外でも高地に行く人に発症する高山病、スキューバダイビングなどに伴う潜水病、ロングフライト症候群、基礎疾患の悪化、交通事故など海外渡航中に発生しうる健康問題には幅広い病態や問題を含んでいます。

図2 熱帯地方への渡航者に関する健康上の問題点



海外渡航者にとってのワクチン

海外での滞在中、特に途上国への渡航者はその地域にみられる感染症の危険にさらされるため、できる限り適切なワクチンを受けておくことが望まれます。ワクチンを選ぶ際には、インターネットで海外渡航に際してのワクチン接種に関する情報源としてよく用いられるサイトである厚生労働省検疫所の For Traveler`s Health (FORTH) (<http://www.forth.go.jp/>) や市販の感染症情報ソフト (Tropimed®、TRAVAX® など) を参考に、単に目的地だけでなく、渡航期間、渡航の形態、宿泊施設、職種など様々な因子を考慮する必要があり、もちろん経済的な事情にも配慮しなくてはなりません。

海外渡航時のワクチンは、①麻疹やポリオなど自らの感染予防のみならず周囲への感染

表2 海外渡航者にとってのワクチン

1. Routine immunization
定期接種のワクチン：3種混合（ジフテリア/百日咳/破傷風）、ポリオ、麻疹・風疹など
2. Required immunization
黄熱（アフリカや南米の一部の国への入国時に接種証明書の提示を要求される場合がある）
3. Recommended immunization
A型肝炎、B型肝炎、腸チフス、髄膜炎菌、狂犬病、日本脳炎、破傷風など

を防止するため主に小児期より定期接種するもの、② 黄熱ワクチンのように入国時などに予防接種証明書を要求されることがあるもの、③ A 型肝炎、破傷風、狂犬病など渡航先で流行している感染症で、わが国では存在しないか、感染する危険性が少ない病気を予防するという個人防衛の意味があるものの 3 種類があります (表 2)。ワクチンによって接種回数、効果の持続期間が異なるため、常にワクチンの記録は怠らず、次の接種はいつ行うかを知っておくことが大切です。

ワクチンに対する認識の違い

2006 年フィリピンより帰国した日本人 2 名が相次いで狂犬病を発症して亡くなり、衝撃を与えました。日本では狂犬病予防法により飼い犬は狂犬病ワクチンの接種を義務づけられており、約 50 年間国内での狂犬病の発症がなかったのですが、世界的には狂犬病が存在する国のほうが圧倒的に多く、毎年多くの方が狂犬病で亡くなっています。覚えておかなければならないのは狂犬病は治療法がなく発症すればほぼ 100%死に至る病であるけれども、ワクチンで予防可能な疾患であり、潜伏期間が比較的長いため、動物に咬まれた後のワクチン接種も有効であるということです。約 50 年間も狂犬病の発生がなかったわが国においては狂犬病の存在を認識する人は少なく、狂犬病患者を診たことがあるという医師もほとんどいなくなってしまいました。私は、2004-2006 年にかけてフィリピンの感染症専門病院における短期熱帯医学臨床研修のインストラクターを務めていましたが、当時同院には犬に咬まれ、ワクチン接種をするために外来を訪れる人は 1 日約 100 名と言われてました。月に平均 7 例程度が狂犬病を発症して同院に入院し、ほぼ全例が数日以内に死亡していましたし、フィリピン在住の人々は動物に咬めると狂犬病になる可能性があることを強く認識していました。この様に感染症の種類や流行状況は国や地域によって大きく異なり、渡航地で流行している感染症の予防法や治療法などを知らなければ、疾病の罹患率は高くなり、時に重症化する場合もあり得るのです。

わが国における海外渡航者のためのワクチンの問題点

海外渡航者のためのワクチンの中には A・B 型肝炎、破傷風、狂犬病、日本脳炎などのように国内でワクチンが製造され承認されているものもあれば、腸チフスや髄膜炎菌などのように需要はあるにも関わらず、国内ではワクチンが製造されておらず、わが国では未承認のものもあります。海外では有効性、安全性が確立されていても国内で未承認のため、このようなワクチンは海外で接種するか、あるいは国内では個人輸入という形で限られたトラベルクリニックなどでしか接種できないのが現状です。日本渡航医学会は、2010 年海外渡航者にとって本来必要なワクチンを大きな支障なく接種できるようにすることを目的として「海外渡航者のためのワクチンガイドライン 2010」を発刊

しました（図 3）。本ガイドラインには各ワクチンの解説だけでなく、接種法についてのわが国と国際基準の比較、法律的事項、ワクチン基礎講座も示されています。

一方、海外渡航者のためのワクチンを接種できる機関に地域差があるということももうひとつの問題点としてあげられます。近年、わが国においても都市部ではトラベルクリニック

は少しずつ増えてきていますが、地方においてはまだ少なく、地域によってはワクチンを接種できる医療機関がほとんどないという場合も珍しくないのが現状です。ワクチン実施機関は、前述の FORTH や日本渡航医学会 (<http://www.travelmed.gr.jp/>) などのサイトで検索ができますが、今後海外渡航者のためのワクチンを接種できる機関が全国的に増えていくことが望まれます。日本渡航医学会は、2011 年よりいまだ我が国では数少ないトラベルクリニックを全国に普及させることを目的としたトラベルクリニックサポート事業を開始しました。



おわりに

日本人が以前より気軽に海外渡航するようになり、渡航地に存在する感染症に罹患する機会は今後も増加することが予想されます。楽しい旅をするには渡航前に観光、ショッピングなどのみならず、健康や安全への備えが大切です。ワクチンで全ての病気を防ぐことはできませんが、少なくとも渡航地に存在し、罹患率の高い疾患、重症化しやすい疾患あるいは致命率の高い疾患でワクチンにより予防可能な疾患については事前のワクチン接種を検討すべきと思われます。今後わが国における海外渡航者のためのワクチンの環境整備が向上するとともに、海外渡航者が事前に渡航地の感染症情報を収集し、必要な感染症対策を準備する習慣をもてるよう啓発していくことが大切です。